

令和7年度第1回廿日市市立中学校などの部活動の地域展開等に関する検討委員会議事録

日時：令和7年10月16日(木)13:30～15:00

場所：はつかいち文化ホールさくらぴありハーサル室

参加者：(別紙参照)

■生田教育長 開会あいさつ

地域展開は将来の市のスポーツや文化芸術に携わる人口に影響する大きな問題。

課題を解決していくながら、市の方針を今年度中に出していく。

■委員自己紹介

■事務局から) 国・市における学校部活動の地域展開等の動きについて

- ・国資料(最終とりまとめの概要)
- ・廿日市市立の中学校部活動の状況について
- ・廿日市市部活動地域展開モデル事業の状況について
- ・地域展開のロードマップについて

各項目を説明

質疑応答 (○→委員 □→事務局)

- → 保護者の方々の反応は？
- → 特にないが情報が少ないことが原因と思われ今後情報提供が必要と考える。
- → 楽しく活動したい子と勝ちにこだわる子とのバランスが難しくならないか。
- → 双方にあった地域の受け皿を考えていきたい。
- → 地域展開は子どもの希望が通る形で実施してほしい。
アンケートの早期実施を望む。
- → アンケートを早期に実施する。今後のスケジュールを考えると新中学1年生
及び新小学5・6年生には早めに情報提供をしていく。
生徒からは活動場所が遠い場合は行きたくないと意見が多く、できるだけ
移動が少ない場所の設定を考えたい。
- → 中体連の今後と試合の機会はどうなるのか？
- → 大会参加は原則として中学校単位だったが、種目によっては地域クラブも参
加可能になってきている。
- → 中体連大会の運営は教員を中心に行ってきた。今後の方向は？
- → 中体連で整理された点は今後、情報提供していく。
- → 現在、学校部活動にはない種目でモデル事業をしているが、定員を割ってい
る状況。参加費だけではクラブを運営していくことは困難。クラブの運営経
費は全額、受益者負担で行うのか？

- → 国の資料では、受益者負担と公的負担、寄附等を財源にする形が示されている。受益者負担と公的負担のバランスは考慮が必要。
　　国の補助制度も今後、示されてくる見込み。
　　クラブの運営継続を続けていただくにはどのような支援が必要か。
- → 指導者の確保に苦労している。確保には資金もかかる。
　　厳しい状況と言わざるを得ない。大規模な自治体では民間のスポーツクラブが地域展開を担っている例があるが、廿日市市は違う方向を考えた方がよいのではないか。
- → 中学校長としての立場で言うと、部活動の教育意義は大きい。教員の様子も変わってきていているが部活動を通して体験できる充実感、生徒同士のふれあいは大切な機会である。
　　一方、部活動は教員の勤務時間を越えて実施されている。子育て世代の教員が増えているが、家庭との時間を割いて部活動を見なければならない。社会状況も変化し教育現場でも様々な意見も出てきている。保護者等との対応に時間を設けることが多く、現状では部活動の種目を増やすことはできない。部活動の地域展開は意義のあることだが、令和10年には土日の部活動の移行、令和11年以降は平日も、というのは非常にハードルが高い。もっとやわらかい(柔軟な)イメージで実施できないか。
- → 平日の地域展開のハードルは高い認識は同じ。平日の夕方に部活動を見守っていただける方は少ない。平日の活動日数を減じる検討も必要。
　　まずは休日の部活動展開を進めるが、その後に平日の展開を見据えて進めしていく必要がある。
- → 部活動の形をそのまま残すのか？
- → 既存の種目は単独で残すか、部員が少ない種目は近隣の学校施設で合同実施する方法を考えている。現状をそのまま地域展開するのは難しい。
　　顧問の教員の指導から、指導者を地域で確保しながら、生徒がやりたいと思う部活を実現し地域展開により生徒の選択肢を増やせるようにしたい。
- → 令和11年に受け皿がなかったら、その部活動はなくなるのか？
　　また、認定クラブは実施主体（受け皿）ごとに認定が必要か？
- → 総合型地域スポーツクラブについてはクラブ全体の認定でよいと考える。
　　各実施主体（受け皿）については個別の支援策を検討する。
- → 施設の使用料はどうなるか？
- → 市の施設の使用料については隨時見直しがなされている。施設の使用料や減免については様々な考え方があるが、学校施設を使用した中学生の地域展開の活動は使用料減免の方向を求めていきたい。

- → 指導者の確保はハードルが高い。現状は教員が顧問を担当している。
- → 地域の人材掘り起こし、本日ご出席の皆さんの組織に加盟する団体の指導者等にご協力ををお願いして実施主体（受け皿）を確保したい。
- → 文化部の活動はどうか？
- → 吹奏楽部に関しては、場所や楽器、指導者の確保など地域人材だけに頼るのでは難しい。他自治体のように文化事業団等の協力も求めたい。
美術部は例えば、パソコンを使用したグラフィックデザイン等も検討していきたい。
- → 教職員の兼職制度の活用は？
- → 勤務時間外は地域の認定クラブに在籍し指導いただける兼職兼業の制度を整理していく。兼職部分も含めて勤務との考え方のため、あまり長時間とならないよう、概ね月4~5時間が目安になると考える。中体連の大会は教職員が中心で運営されており今後、各競技団体と検討していくと思う。

協議事項（ディスカッション）

- ① 廿日市市部活動の地域展開方針（案）基本目標について
- ② 認定クラブ活動に必要な要件について

〈グループ1で出た意見〉

- ・ 理想は学校への指導者派遣が望ましい。
- ・ スポ少、既存チーム、レク、生涯スポーツ、新しい種目、多様な選択ができれば
- ・ 指導者、場所、金が必要。
- ・ 認定要件のあり方を示してほしい。
- ・ これまで中体連大会の運営は教員の力が大きい。

〈グループ2で出た意見〉

- ・ 人材、指導者のなり手が少ない。
- ・ 指導法、安全確保等の研修の実施を求めたい。
- ・ 活動に金、場所が必要。
- ・ 教職員の兼職兼業は実際の勤務では難しい？ 国で制度化が必要。
- ・ 既存の部活動を全て存続されるのは困難。部の集約、人の確保、住所地以外のクラブの参加等柔軟に考える必要がある。
- ・ 保護者の費用負担 月2千円~3千円でも生徒がやりたいことなら払うのでは？
- ・ 吹奏楽は学校行事での機会もあるので活動が残せないか。
- ・ 文化部等の短時間でできる活動は学校で部活動として残してもよいのではないか？